

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専修学校 インターナショナルデザインアカデミー
設置者名	学校法人KBC学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化教養専門課程	グラフィックデザイン科	夜・通信	2185時間	160時間	
	デジタルデザイン科	夜・通信	1864時間	160時間	
	マンガ科	夜・通信	2649時間	160時間	
	ファッション科	夜・通信	2416時間	160時間	
工業専門課程	インテリア・建築デザイン科 (2年制)インテリアデザインコース	夜・通信	1702時間	160時間	
	インテリア・建築デザイン科 (2年制)建築デザインコース				
	インテリア・建築デザイン科 (3年制)インテリアデザインコース	夜・通信	2482時間	240時間	
	インテリア・建築デザイン科 (3年制)建築デザインコース				
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.ida.ac.jp/information/public/>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専修学校 インターナショナルデザインアカデミー
設置者名	学校法人KBC学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<http://www.kbcgroup.jp/about-kbc/public/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	平成 29 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日	学園運営に対する 助言・コンプライア ンス
非常勤	社会福祉法人理事	平成 29 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日	学園運営に対する 助言・コンプライア ンス
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専修学校 インターナショナルデザインアカデミー
設置者名	学校法人KBC学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>○教育課程編成計画(カリキュラム)</p> <p>毎年5月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。</p> <p>10月に第2回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識・技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。</p> <p>○授業計画(シラバス)</p> <p>上記により確定したカリキュラムを基に2月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。</p> <p>○公表</p> <p>確定したカリキュラム及びシラバスを学校HPにて公開し学生へその旨告知を行う。(4月)</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="https://www.ida.ac.jp/information/public/">https://www.ida.ac.jp/information/public/</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講態度、出席状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び出席状況、課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価しています。修了制作、卒業制作については、1年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価しています。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。</p> <p>科目の出席状況の基準として講義系は80%以上、実習演習、実技系科目は自宅制作も考慮し、70%を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)  
 学習意欲の把握、試験やレポート、作品制作評価などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して履修を認定します。  
 G P Aの算出式は下記に示すとおりです。  
 <1>試験得点に応じて5段階(3.0、2.0、1.0、0)の数値(グレード・ポイント)を設定します。なお、受講を途中でやめた科目や不合格となった科目はグレード・ポイントが0点となります。  
 <2>各履修科目のグレード・ポイントに、科目の時間数をかけた値を全履修科目分合算し、その値を全履修科目の時間数の合計で割ったものがG P Aとなります。  
 成績評価基準及びG P A算出方法を学校H Pにて公開し年度開始毎に学生へオリエンテーションにて開示を行います。

客観的な指標の算出方法の公表方法	<a href="https://www.ida.ac.jp/information/public/">https://www.ida.ac.jp/information/public/</a>
------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)  
 各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。  
 ディプロマポリシーと共に以下の要件を満たすことも卒業条件として加味する。  
 1、授業出席率が累計で90%以上であること。  
 2、課題提出率が100%であること  
 3、卒業制作が提出されていること  
 卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。  
 学生へは年度開始毎にオリエンテーションにて開示し提示するとともにH Pでも公開を行う。

卒業の認定に関する方針の公表方法	<a href="https://www.ida.ac.jp/information/public/">https://www.ida.ac.jp/information/public/</a>
------------------	---

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専修学校インターナショナルデザインアカデミー
設置者名	学校法人KBC学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="http://www.kbcgroup.jp/about-kbc/public/">http://www.kbcgroup.jp/about-kbc/public/</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="http://www.kbcgroup.jp/about-kbc/public/">http://www.kbcgroup.jp/about-kbc/public/</a>
財産目録	<a href="http://www.kbcgroup.jp/about-kbc/public/">http://www.kbcgroup.jp/about-kbc/public/</a>
事業報告書	<a href="http://www.kbcgroup.jp/about-kbc/public/">http://www.kbcgroup.jp/about-kbc/public/</a>
監事による監査報告（書）	<a href="http://www.kbcgroup.jp/about-kbc/public/">http://www.kbcgroup.jp/about-kbc/public/</a>

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報（1）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門課程	グラフィックデザイン科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2128時間 単位時間/単位	438 単位時間/単位	888 単位時間/単位	1210 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			2,536 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
140人		78人	1人	2人	6人	8人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

○教育課程編成計画(カリキュラム)  
 毎年5月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。  
 10月に第2回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識・技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。

○授業計画(シラバス)  
 上記により確定したカリキュラムを基に2月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。

○公表  
 確定したカリキュラム及びシラバスを学校HPにて公開し学生へその旨告知を行う。(4月)

成績評価の基準・方法

(概要)  
 成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講態度、出席状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び出席状況、課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価しています。修了制作、卒業制作については、1年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価しています。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。  
 科目の出席状況の基準として講義系は80%以上、実習演習、実技系科目は自宅制作も考慮し、70%を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。

卒業・進級の認定基準

(概要)  
各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。  
ディプロマポリシーと共に以下の要件を満たすことも卒業条件として加味する。  
1、 授業出席率が累計で 90%以上であること。  
2、 課題提出率が 100%であること  
3、 卒業制作が提出されていること  
卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。  
学生へは年度開始毎にオリエンテーションにて開示し提示するとともにHPでも公開を行う。

学修支援等

(概要)  
クラス担任制として、個別対応を実施している。  
定期的な個別面談やスクールカウンセリング対応も実施しながら、本人の適性に合わせた就職支援と合わせて学修支援を行っている。

卒業者数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
29人 (100%)	3人 ( 10%)	24人 ( 83%)	2人 ( 6%)

(主な就職、業界等)  
広告代理店、印刷関連、(株)アドスタッフ博報堂、(株)永昌堂印刷、(株)ハロネット、(株)恩納村観光協会、(株)KKI、沖縄アスコン(株)

(就職指導内容)  
適性検査、自己発見検査、就職個別指導、面接指導、合同企業説明会、企業個別説明会

(主な学修成果 (資格・検定等) )

資格・検定名	受験者数	合格者数
Illustrator クリエイター能力認定試験	31名	31名
Photoshop クリエイター能力認定試験	30名	29名
DTP 検定Ⅱ種	29名	8名
ADEC 色彩士検定	30名	26名

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
76人	4人	5%
(中途退学の主な理由) 進路変更、精神的疾患、家庭環境の悪化		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による細やかなガイダンスとともに、臨床心理士によるメンタルケアを行う。 学生個別の対処法について学校・学生・保護者の3者で情報共有し立ち直りを促す。		

① 学科等の情報（２）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門課程	デジタルデザイン科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1855時間 単位時間／単位	547 単位時間 ／単位	828 単位時間 ／単位	945 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			2320単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		39人	0人	2人	5人	7人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

○教育課程編成計画(カリキュラム)  
 毎年5月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。  
 10月に第2回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識、技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。

○授業計画(シラバス)  
 上記により確定したカリキュラムを基に2月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。

○公表  
 確定したカリキュラム及びシラバスを学校HPにて公開し学生へその旨告知を行う。(4月)

成績評価の基準・方法

(概要)  
 成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講態度、出席状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び出席状況、課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価しています。修了制作、卒業制作については、1年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価しています。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。  
 科目の出席状況の基準として講義系は80%以上、実習演習、実技系科目は自宅制作も考慮し、70%を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。

卒業・進級の認定基準

(概要)  
 各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。ディプロマポリシーと共に以下の要件を満たすことも卒業条件として加味する。  
 4、授業出席率が累計で90%以上であること。  
 5、課題提出率が100%であること  
 6、卒業制作が提出されていること  
 卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。  
 学生へは年度開始毎にオリエンテーションにて開示し提示するとともにHPでも公開を行う。

学修支援等

(概要)  
 クラス担任制として、個別対応を実施している。  
 定期的な個別面談やスクールカウンセリング対応も実施しながら、本人の適性に合わせた就職支援と合わせて学修支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
22人 (100%)	0人 ( 0%)	18人 ( 82%)	4人 ( 18%)
（主な就職、業界等） デジタルコンテンツ、映像業界、(株)沖縄ハースト、(有)CMC、(株)RBC ビジョン、(株)monoii、(株)オブ ト、沖縄コーラルオフィス			
（就職指導内容） 適性検査、自己発見検査、就職個別指導、面接指導、合同企業説明会、企業個別説明会			
（主な学修成果（資格・検定等））			
資格・検定名	受験者数	合格者数	
Illustrator クリエイター能力認定試験	17名	16名	
Photoshop クリエイター能力認定試験	17名	12名	
Web クリエイター能力認定試験	17名	15名	
ADEC 色彩士検定	17名	15名	
Ibut 検定	17名	17名	
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
39人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任による細やかなガイダンスとともに、臨床心理士によるメンタルケアを行う。 学生個別の対処法について学校・学生・保護者の3者で情報共有し立ち直りを促す。		

① 学科等の情報 (3)

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門課程	マンガ科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1859時間 単位時間/単位	297 単位時間/単位	1863 単位時間/単位	687 単位時間/単位	単位時間/単位	
			2847 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	56人	0人	2人	7人	9人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>○教育課程編成計画(カリキュラム)</p> <p>毎年5月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。</p> <p>10月に第2回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識、技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。</p> <p>○授業計画(シラバス)</p> <p>上記により確定したカリキュラムを基に2月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。</p> <p>○公表</p> <p>確定したカリキュラム及びシラバスを学校HPにて公開し学生へその旨告知を行う。(4月)</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講態度、出席状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び出席状況、課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価しています。修了制作、卒業制作については、1年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価しています。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。</p> <p>科目の出席状況の基準として講義系は80%以上、実習演習、実技系科目は自宅制作も考慮し、70%を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。ディプロマポリシーと共に以下の要件を満たすことも卒業条件として加味する。</p> <p>7、授業出席率が累計で90%以上であること。</p> <p>8、課題提出率が100%であること</p> <p>9、卒業制作が提出されていること</p> <p>卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。</p> <p>学生へは年度開始毎にオリエンテーションにて開示し提示するとともにHPでも公開を行う。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>クラス担任制として、個別対応を実施している。</p> <p>定期的な個別面談やスクールカウンセリング対応も実施しながら、本人の適性に合わせた就職支援と合わせて学修支援を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
24人 (100%)	1人 ( 4%)	15人 ( 62%)	8人 ( 33%)
（主な就職、業界等） Web 関連会社、ゲーム会社、アニメーション会社、デザイン会社など、(株)マンゴハウス、(有)MSJ 武蔵野製作所、(株)ティーダワークス、(株)アンビション			
（就職指導内容） 適性検査、自己発見検査、就職個別指導、面接指導、合同企業説明会、企業個別説明会			
（主な学修成果（資格・検定等））			
資格・検定名	受験者数	合格者数	
Illustrator クリエイター能力認定試験	34 名	29 名	
Photoshop クリエイター能力認定試験	34 名	30 名	
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
62 人	3 人	5 %
（中途退学の主な理由） 精神疾患のため		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任による細やかなガイダンスとともに、臨床心理士によるメンタルケアを行う。 学生個別の対処法について学校・学生・保護者の3者で情報共有し立ち直りを促す。		

① 学科等の情報（４）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門課程	インテリア・建築デザイン科(2年制) インテリアデザインコース	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1825時間 単位時間/単位	348 単位時間/単位	1255 単位時間/単位	255 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			1858単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人の内数		8人	0人	2人	4人	6人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>○教育課程編成計画(カリキュラム)</p> <p>毎年5月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。</p> <p>10月に第2回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識、技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。</p> <p>○授業計画(シラバス)</p> <p>上記により確定したカリキュラムを基に2月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。</p> <p>○公表</p> <p>確定したカリキュラム及びシラバスを学校HPにて公開し学生へその旨告知を行う。(4月)</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講態度、出席状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び出席状況、課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価しています。修了制作、卒業制作については、1年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価しています。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。</p> <p>科目の出席状況の基準として講義系は80%以上、実習演習、実技系科目は自宅制作も考慮し、70%を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。ディプロマポリシーと共に以下の要件を満たすことも卒業条件として加味する。</p> <p>10、 授業出席率が累計で90%以上であること。</p> <p>11、 課題提出率が100%であること</p> <p>12、 卒業制作が提出されていること</p> <p>卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。</p> <p>学生へは年度開始毎にオリエンテーションにて開示し提示するとともにHPでも公開を行う。</p>
学修支援等

(概要)  
 クラス担任制として、個別対応を実施している。  
 定期的な個別面談やスクールカウンセリング対応も実施しながら、本人の適性に合わせた就職支援と合わせて学修支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5人 (100%)	1人 ( 20%)	3人 ( 60%)	1人 ( 20%)
(主な就職、業界等) 建築設計業界、設備販売、インテリアデザイン事務所ほか、(株)泉設計、サイアスホーム(株)、(株)クレールアーキラボ、(株)小島組、(有)ヴィーナス、(株)タクト			
(就職指導内容) 適性検査、自己発見検査、就職個別指導、面接指導、合同企業説明会、企業個別説明会			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
資格・検定名	受験者数	合格者数	
建築 CAD 検定 3 級	2 名	1 名	
ADEC 色彩士検定	2 名	1 名	
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
9人	1人	16%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による細やかなガイダンスとともに、臨床心理士によるメンタルケアを行う。 学生個別の対処法について学校・学生・保護者の3者で情報共有し立ち直りを促す。		

② 学科等の情報 (5)

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門課程	インテリア・建築デザイン科(2年制) 建築デザインコース	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1825時間 単位時間/単位	348 単位時間/単位	1255 単位時間/単位	255 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			1858単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人の内数	21人	0人	2人	4人	6人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)

○教育課程編成計画(カリキュラム)

毎年5月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。

10月に第2回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識、技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。

○授業計画(シラバス)

上記により確定したカリキュラムを基に2月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。

○公表

確定したカリキュラム及びシラバスを学校HPにて公開し学生へその旨告知を行う。(4月)

成績評価の基準・方法

(概要)

成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講態度、出席状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び出席状況、課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価しています。修了制作、卒業制作については、1年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価しています。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。

科目の出席状況の基準として講義系は80%以上、実習演習、実技系科目は自宅制作も考慮し、70%を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。

卒業・進級の認定基準

(概要)

各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。ディプロマポリシーと共に以下の要件を満たすことも卒業条件として加味する。

13、 授業出席率が累計で90%以上であること。

14、 課題提出率が100%であること

15、 卒業制作が提出されていること

卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。

学生へは年度開始毎にオリエンテーションにて開示し提示するとともにHPでも公開を行う。

学修支援等

(概要)

クラス担任制として、個別対応を実施している。

定期的な個別面談やスクールカウンセリング対応も実施しながら、本人の適性に合わせた

就職支援と合わせて学修支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
18人 (100%)	1人 (5%)	15人 (32%)	3人 (16%)

(主な就職、業界等)

建築設計業界、設備販売、インテリアデザイン事務所ほか、(株)泉設計、サイアスホーム(株)、(株)クレールアーキラボ、(株)小島組、(有)ヴィーナス、(株)タクト

(就職指導内容)

適性検査、自己発見検査、就職個別指導、面接指導、合同企業説明会、企業個別説明会

(主な学修成果(資格・検定等))

資格・検定名	受験者数	合格者数
建築 CAD 検定 3 級	12 名	11 名
ADEC 色彩士検定	11 名	11 名

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22人	2人	9%

(中途退学の主な理由)

学修への興味喪失、進路変更

(中退防止・中退者支援のための取組)

担任による細やかなガイダンスとともに、臨床心理士によるメンタルケアを行う。  
学生個別の対処法について学校・学生・保護者の3者で情報共有し立ち直りを促す。

① 学科等の情報（6）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門課程	インテリア・建築デザイン科（3年制） インテリアデザインコース				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2773時間 単位時間/単位	504 単位時間/単位	1987 単位時間/単位	315 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			2806単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人の内数		6人	0人	2人	4人	6人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>○教育課程編成計画(カリキュラム)</p> <p>毎年5月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。</p> <p>10月に第2回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識、技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。</p> <p>○授業計画(シラバス)</p> <p>上記により確定したカリキュラムを基に2月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。</p> <p>○公表</p> <p>確定したカリキュラム及びシラバスを学校HPにて公開し学生へその旨告知を行う。(4月)</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講態度、出席状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び出席状況、課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価しています。修了制作、卒業制作については、1年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価しています。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。</p> <p>科目の出席状況の基準として講義系は80%以上、実習演習、実技系科目は自宅制作も考慮し、70%を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。ディプロマポリシーと共に以下の要件を満たすことも卒業条件として加味する。</p> <p>16、 授業出席率が累計で90%以上であること。</p> <p>17、 課題提出率が100%であること</p> <p>18、 卒業制作が提出されていること</p> <p>卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。</p> <p>学生へは年度開始毎にオリエンテーションにて開示し提示するとともにHPでも公開を行う。</p>
学修支援等

(概要)  
 クラス担任制として、個別対応を実施している。  
 定期的な個別面談やスクールカウンセリング対応も実施しながら、本人の適性に合わせた就職支援と合わせて学修支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
一人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) 適性検査、自己発見検査、就職個別指導、面接指導、合同企業説明会、企業個別説明会			
(主な学修成果(資格・検定等))			
資格・検定名	受験者数	合格者数	
建築 CAD 検定 3 級	1 名	1 名	
ADEC 色彩士検定	1 名	1 名	
(備考) (任意記載事項) 3 年制課程においては昨年度卒業生が出ていないため、卒業生数ならびに就職実績に関しては空欄となっております			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
6 人	0 人	0 %
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による細やかなガイダンスとともに、臨床心理士によるメンタルケアを行う。 学生個別の対処法について学校・学生・保護者の 3 者で情報共有し立ち直りを促す。		

② 学科等の情報（7）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
文化教養		文化教養専門課程	インテリア・建築デザイン科（3年制） 建築デザインコース			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
3年	昼間	2773時間 単位時間／単位	504 単位時間 ／単位	1987 単位時間 ／単位	315 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			2806単位時間／単位			
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人の内数	4人	0人	2人	4人	6人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

○教育課程編成計画（カリキュラム）

毎年5月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。

10月に第2回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識、技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。

○授業計画（シラバス）

上記により確定したカリキュラムを基に2月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。

○公表

確定したカリキュラム及びシラバスを学校HPにて公開し学生へその旨告知を行う。（4月）

成績評価の基準・方法

（概要）

成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講態度、出席状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び出席状況、課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価しています。修了制作、卒業制作については、1年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価しています。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。

科目の出席状況の基準として講義系は80%以上、実習演習、実技系科目は自宅制作も考慮し、70%を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。ディプロマポリシーと共に以下の要件を満たすことも卒業条件として加味する。

19、 授業出席率が累計で90%以上であること。

20、 課題提出率が100%であること

21、 卒業制作が提出されていること

卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。

学生へは年度開始毎にオリエンテーションにて開示し提示するとともにHPでも公開を行う。

学修支援等

（概要）

クラス担任制として、個別対応を実施している。

定期的な個別面談やスクールカウンセリング対応も実施しながら、本人の適性に合わせた

就職支援と合わせて学修支援を行っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
一人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) 適性検査、自己発見検査、就職個別指導、面接指導、合同企業説明会、企業個別説明会			
(主な学修成果(資格・検定等))			
資格・検定名	受験者数	合格者数	
建築 CAD 検定 3 級	3 名	3 名	
ADEC 色彩士検定	3 名	3 名	
(備考) (任意記載事項) 3 年制課程においては昨年度卒業生が出ていないため、卒業者数ならびに就職実績に関しては空欄となっております			

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
4 人	0 人	0 %
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による細やかなガイダンスとともに、臨床心理士によるメンタルケアを行う。 学生個別の対処法について学校・学生・保護者の 3 者で情報共有し立ち直りを促す。		

① 学科等の情報（８）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
文化教養		文化教養専門課程	ファッション科	○		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2年	昼間	2088時間 単位時間／単位	289 単位時間 ／単位	1442 単位時間 ／単位	813 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			2544 単位時間／単位			
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人	16人	0人	1人	5人	6人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

○教育課程編成計画(カリキュラム)  
 毎年5月に教育課程編成委員会を開催。昨年度の答申に基づいて作成された今年度のカリキュラム内容を発表し、留意点や修正点などを話し合う。  
 10月に第2回教育課程編成委員会を開催。業界動向、国及び地方の産業振興の動向、必要となる実務に関する知識、技術等について教育課程の今年度前期の実施状況を報告し、修正案や意見を聴取する。その後学内検討委員会にて次年度に向けた内容を精査し、校長にて確認後答申決定とする。

○授業計画(シラバス)  
 上記により確定したカリキュラムを基に2月までに授業計画を各教科担当にて作成。その後学科長及び校長にて内容を確認後決定とする。

○公表  
 確定したカリキュラム及びシラバスを学校HPにて公開し学生へその旨告知を行う。(4月)

成績評価の基準・方法

(概要)  
 成績評価は、講義科目については、科目担当教員が定期試験、中間試験、レポート、受講態度、出席状況などを総合的に判断し評価を行う。ただし、演習及び実験・実習、実技については課題提出状況及び出席状況、課題のクオリティ、授業態度、作品のプレゼンテーションによって総合的に評価しています。修了制作、卒業制作については、1年間で習得された知識技術が作品として発揮されているか、作品制作への取り組み姿勢及び作品プレゼンテーション、研究内容などを総合的に評価しています。各科目の評価方法は、それぞれのシラバスに掲載しています。  
 科目の出席状況の基準として講義系は80%以上、実習演習、実技系科目は自宅制作も考慮し、70%を対象とし、それ未満の場合は評価の対象外とする。

卒業・進級の認定基準

(概要)  
 各学科創設時に策定したディプロマポリシーを基に卒業の認定要件を設定している。ディプロマポリシーと共に以下の要件を満たすことも卒業条件として加味する。  
 22、 授業出席率が累計で90%以上であること。  
 23、 課題提出率が100%であること  
 24、 卒業制作が提出されていること  
 卒業の認定要件に達しているかどうかの成績評価及び履修状況の確認を卒業判定会議にて確認し校長が卒業を認定する。  
 学生へは年度開始毎にオリエンテーションにて開示し提示するとともにHPでも公開を行う。

学修支援等

(概要)  
 クラス担任制として、個別対応を実施している。  
 定期的な個別面談やスクールカウンセリング対応も実施しながら、本人の適性に合わせた就職支援と合わせて学修支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
9人 (100%)	1人 ( 11%)	8人 ( 89%)	0人 ( 0%)
（主な就職、業界等） アパレル販売業界、(株)ヤマダヤ、(株)ワールドストアパートナーズ、(株)ジュングループ、(株)プロジェクトコア			
（就職指導内容） 適性検査、自己発見検査、就職個別指導、面接指導、合同企業説明会、企業個別説明会			
（主な学修成果（資格・検定等））			
資格・検定名	受験者数	合格者数	
パターンメイキング技術検定	4名	3名	
ファッション販売能力検定	10名	9名	
ファッションビジネス能力検定	9名	5名	
色彩検定	10名	10名	
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任による細やかなガイダンスとともに、臨床心理士によるメンタルケアを行う。 学生個別の対処法について学校・学生・保護者の3者で情報共有し立ち直りを促す。		

## ②学校単位の情報

### a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
グラフィックデザイン科	100,000円	780,000円	円	
デジタルデザイン科	100,000円	780,000円	円	
マンガ科	100,000円	780,000円	円	
インテリア・建築デザイン科2年制	100,000円	780,000円	円	

インテリア・建築デザイン科3年制	100,000円	780,000円	円
ファッション科	100,000円	760,000円	円
修学支援（任意記載事項）			

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.ida.ac.jp/information/public/">https://www.ida.ac.jp/information/public/</a>		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制） 学校が行う運営によって直接・間接的に影響を受ける企業や高校教員、保護者等によって構成される委員を選定し、①教育理念、②教育の内容、③教育の実施体制、④達成度と教育効果、⑤学生支援、⑥社会的活動、⑦管理運営、⑧財務、⑨改革・改善の9項目102点検項目の評価結果に基づき学校関係者評価委員会を開催する。 学校評価の結果をふまえ、中期経営計画、次年度業務計画策定時の改善に繋げる。自己点検評価、学校関係者評価報告書を作成しホームページにて公開する。また全職員で共有する機会を持つ事とする。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社 平山印刷	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	企業委員グラフィックデザイン分野（卒業生）
沖縄県立浦添工業高校 教諭	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	高校教員
東建コーポレーション株式会社	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	保護者
沖縄高速印刷株式会社	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	企業委員デジタルデザイン分野（卒業生）
アイ・エイチ・エー建築設計事務所	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	企業委員インテリア建築分野（卒業生）
株式会社ピンクドラキュラズ代表	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	企業委員ファッション分野（卒業生）
株式会社 monoi i	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	企業委員マンガ分野（卒業生）
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.ida.ac.jp/information/public/">https://www.ida.ac.jp/information/public/</a>		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.ida.ac.jp/">https://www.ida.ac.jp/</a>
--